

## 浅間山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部  
火山監視・情報センター

本日(2日)気象庁機動調査班及び東京大学地震研究所が長野県の協力を得て実施した上空からの観測では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が前掛山を越えて山頂火口の北西約1~1.2kmのところまで達しているのが確認されました。

山頂火口から4キロメートルの範囲では、噴火に伴う大きな噴石(風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きさのもの)の飛散等に警戒が必要です。

### 上空からの観測結果

本日(2日)午前中に気象庁機動調査班及び東京大学地震研究所が長野県の協力を得て実施した上空からの観測では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が前掛山を越えて山頂火口の北西約1~1.2kmのところまで達しており、大きさ1m程度の噴石は火口から500m程度まで飛散していました。飛散した噴石に高温のものは確認されませんでした。

降灰は山頂火口の南東から時計周りに北西にかけて降灰が認められました。

山頂火口付近の地形に大きな変化は認められませんでした。

山頂火口内の状況及び火口底の温度は噴煙のため確認できませんでした。



図1 浅間山 火口北西斜面上(火口から200m)に降下した噴石の跡  
(は約1メートル程度の大きな噴石)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平20業使、第385号)。

この資料は気象庁のほか、国土交通省利根川水系砂防事務所、東京大学、独立行政法人産業技術総合研究所及び長野県のデータも利用して作成しています。



図2 浅間山 北西上空から撮影した前掛山西斜面に落下した噴石の跡  
( は約1メートル程度の大きな噴石 )



図3 浅間山 軽井沢消防署から撮影した浅間山



図4 浅間山 火口南西上空から(東京大学地震研究所撮影)  
・火口の南東側から時計回りに北西側にかけて厚く噴出物が堆積している



図5 浅間山 火口北上空から(東京大学地震研究所撮影)

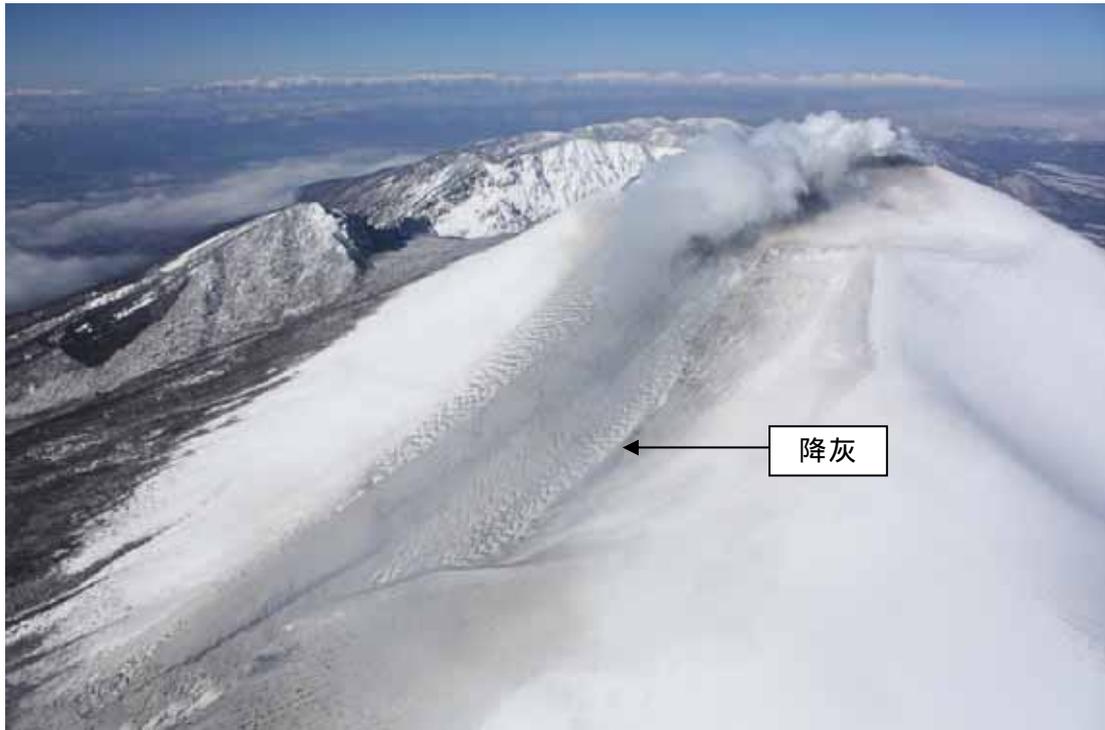


図6 浅間山 火口東南東上空から撮影